

<保育の社会化に向けて>

一 保育の営みをいかに社会に発信するか 一

千葉県・御宿町・御宿町立岩和田保育所
所長・金網誓子

保育所の概要

定員 90名 現員 25名 職員総数10名 設立年月日 昭和28年10月30日

設置市区町村概要

人口 7,713人 保育所数 2か所(公)

1 はじめに

御宿町は房総半島の東南に位置し、北東には田園風景が広がり、南西には童謡「月の沙漠」で知られる白い砂丘の海岸線が続く自然豊かな町です。御宿町では、「岩和田保育所」と「御宿保育所」2つの保育所があります。平成19年度の小学校の統廃合に伴い、3歳以上児の保育を御宿保育所で行い、岩和田保育所は未満児のみの保育所となりました。

2 取り組み

実践 I 園に来ている保護者へ向けて発信

『保育の中身を伝えていく工夫』

- 1) 保育内容を伝える
 - ・各クラスや全体から保育を言語化し掲示する
 - ・保護者が集まった機会に園の方針や日頃の保育内容を伝えていく
- 2) 保育が伝わっているかアンケートをとり確認する
- 3) 個人面談を行い今後の子育てに生かす

実践 II 未就園児親子へ向けて発信

『保育をみることで、子育ての役に立ててもらおう』

- 1) 子育て相談で、子育ての迷いや困っていることなどを聞く
- 2) 保育を公開し、子育ての参考にってもらう

3. 実践 I 園に来ている保護者に向けて発信

1) 保育内容を伝える掲示 ～ 園で行っていることを見える化していく ～

☆保育の意図を理解してもらえるよう、日々保育で大事にしている担任の思いや働きかけ、子ども同士のエピソードや成長の姿などをとりあげる

0歳児 クラス便りから子どもの姿や成長を知らせていく

保育で行った手遊びや歌、人気の絵本、すぐできる親子遊びの紹介

1歳児 毎日の保育内容を掲示して伝えていく

子どもの姿、大事にしている事、気づき、保育の中の教育的側面を言語化する

2歳児 給食、散歩からのひとコマ、友だちとのエピソードなどから発信

全体 ・園の方針は、保護者の集まる機会に話して知らせていく

・保育参観（参加）や子育て講演会を開き、この時期の子育てのあり方を伝える

『3歳までの家庭教育』 講師 子ども未来共生会理事長 中島 展氏

・玄関ボードや掲示物に園内の様子を紹介

生活や遊びの中でのエピソード、子どもの成長のひとコマ、園外とのつながり（御宿保育園との交流、老人クラブ、散歩での出来事）

・園便りや子育てワンポイントコーナーに、教育的側面を入れて発信する

2) 保育参観（参加）後の、アンケート結果（H28、11、10）

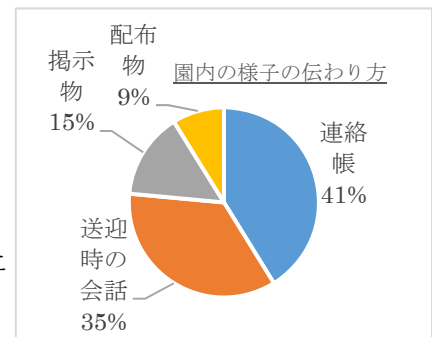
Q、園での様子が伝わっていますか？

1、はい19人 2、よくわからない2人 3、わからない0人

3) 個人面談を実地して

保護者 家と違ってよくやっていると感心、成長した姿を喜んだ。
頑張っている分もう少し家では甘えさせても良いと思った
祖父母の甘やかし、言い聞かせ出来ない事、発育の心配。

保育士 普段の送迎時の会話だけでは、わからなかったことも聞け、信頼関係も深まった。
親の子どもへの思いを聞いた事で子どもの見方も変わり寄り添えるようになった。
次年度は7月に1回と進級前に1回、年2回実施したい。



☆ 結果と課題

- ・連絡帳と送迎時の保育士との会話が一番役立っている。祖父母の送迎や時間外保育で担任と毎日会えない保護者もいるので、今後は個人面談や、家庭へのクラス便りなどの発信も考慮したい。又、伝える力を高めるためには、会話や文章力を磨くことにも努力すること。
- ・単なる「〇〇した」というのでなくエピソードやその過程を言語化し紹介するということは子どもの心の動きを良く見て、寄り添える感性も保育士には必要となることに気づいた。
- ・それぞれの保育士が自分の保育を自分なりの方法で発信していこうと動き出したことは、保育の振り返りになり、明日への環境作りにも意欲がわいた。

食べる量は？
(1歳児母)

おむつがとれない
(2歳児祖母)

忙しく動くので
クタクタ(1歳児母)

保育を見てみたら？

子どもも刺激を受けるし、役立つ情報も！！

今日の献立

＜スペイン風オムレツ＞

ボイル野菜・小魚・チーズ＞



参加者のつぶやき

- ・トイレの排尿間隔表(1歳児)を見て、「一人ひとり、対応が違うんですね」
- ・食事の量を見て「野菜が多いけど皆食べてる」「ご飯とおかずを別に盛り付けしてる」
- ・2歳児クラス「お箸を使って上手に食べてる！」
- ・0、1歳児クラス「皆、座ってますね」「手づかみで食べてる！」

アドバイス

- 規則正しい生活、身体を動かして遊ばせ、おなかがすかせることで、食事中も座って食べるようになってきた。おなかが減っていれば食べたい意欲が出るので、家庭でも習慣づくように話をした。
- こぼしたり汚す事より、自分で食べる意欲を大切にしている。
- トイレ指導は、個々の排尿間隔をつかむ。おむつがぬれていなければ便座に座らせてみる。他の子をモデルにトイレに誘い、使い方を教えていく。成功したら皆で褒めまくる。
- 子育てに困ったら見学や相談も出来るので、「まずはお電話ください」と、園のパンフレットを渡した。
- 一時保育は、子育てに疲れた時でも使えることを伝え、利用の手順を話す。

結果と今後

- ・見学に来た子どもも、見ているだけでなく、一緒に給食を食べる機会を作ってあげたい。
 - ・お箸への移行は、時期的に良かった。子どもが刺激され、家でも始めたと後日聞く。
 - ・オムツ外しは、夏を迎える前に計画する。
 - ・来年度からこども園になるので、園内の支援センターと連携し、ピンポイント的支援で実際の保育を見てもらい、保育のノウハウを子育てに役立ててもらえたらと思う。
- 支援センターの事を母子手帳配布時や広報誌、ポスター、パンフレットなどで広めていく。

児童館と連携し保育所見学を呼びかけ1 1/8実施



お箸を使った遊び 2歳児



成果と課題

こども園になるにあたり、教育的話題も多くなり期待もされている昨今、なにより、今来ている保護者から、ただ預かって過ごしているだけの保育ではないことを知ってもらいたく今回、自分たちの園で出来ることを考え、発信の1歩を踏み出してみました。

実践していく中で、臨時職員も含め、保育内容（養護と教育）を再度確認したり、何を育てたいのか、それで何が育つのか、今、何を大事にしなければいけないのか、それぞれの保育士が考える良いきっかけとなりました。保育を言語化して発信するには、子どもを良く観察することや連絡帳への文章力、会話で的確に伝える表現力を磨くことにもなり、意識して続けていくことで保育士の質の向上へと繋がっていきました。今後は、2つの園が一緒になってこども園となり、新しい場所に移ります。新しい地域でも、園以外の外の世界と繋がり合い、就学前のすべての子どもたちの最善の利益と子育て家庭の支援を担えるよう、社会に情報発信しながらその機能を果たせるよう励みたいと思います。

岩和田保育所 (園児 25名 21家庭)

クラス	人数	正職	臨職
0歳児	4	1	1
1歳児	11	1	1
2歳児	10	1	1
一時保育			1
所長		1	
調理員			2
合計	25	4	6

保育目標

育てたい3つの力の基礎づくり

1. 生活する力
基本的な生活習慣を確立し、自分でできることを増やす
2. 学ぶ力 (意欲)
いろいろな環境設定のもと、五感を刺激し意欲を育てる
3. 繋がる力 (社会と繋がる)
物、人、自然と繋がる

お散歩で外の社会と繋がる



<お散歩しながら体験>

地域の人と挨拶を交わす

歩く、見る、言葉を発する

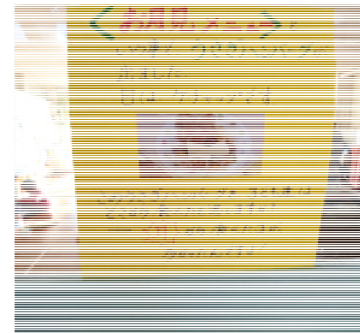
自然に触れる 生き物を見つける

保護者に保育を伝える

日々の保育内容掲示



人気だった給食メニュー



親子遊びの紹介



クラス便り